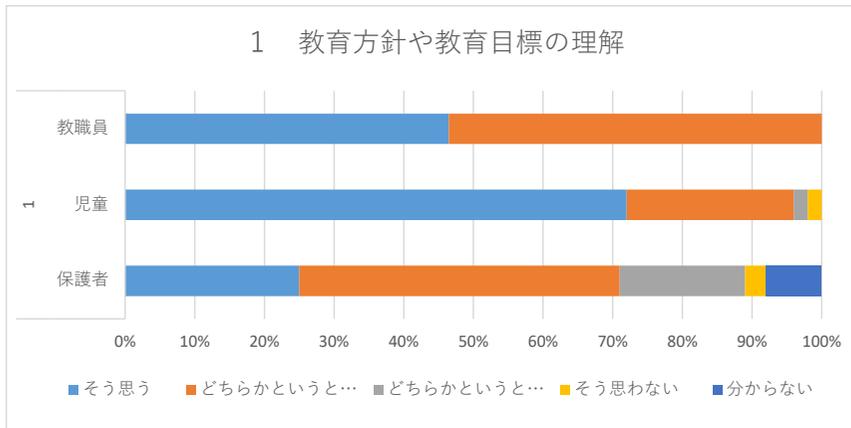


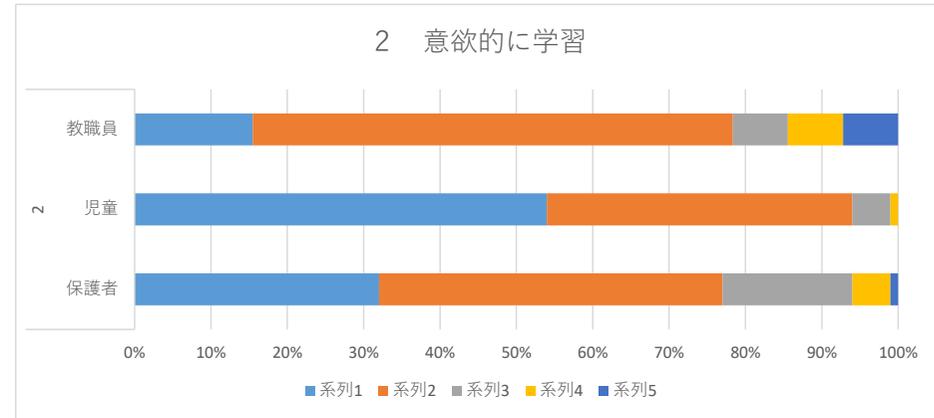
## 学校評価（保護者・児童・教職員）

### 1 教育方針や教育目標の理解



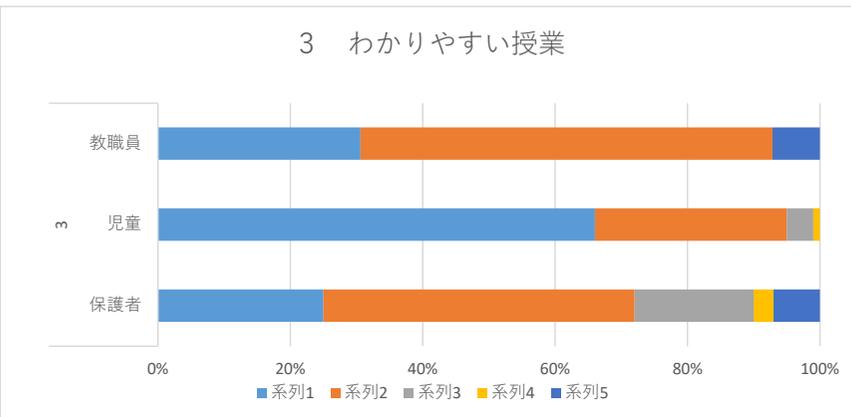
本年度も学校教育目標の下7つの重点目標（レインボープラン）・しおあじを掲げ取り組み、学校だより、ホームページ等で説明をしてきた。しかし保護者に直接伝える場がなかったため、肯定的評価が71%（-7%）となった。しかし、逆に日常的にしおあじについて指導を重ねた成果として、児童の肯定的評価は97%（+7%）にのびた。今後もさらなる周知を図っていききたい。

### 2 意欲的に学習



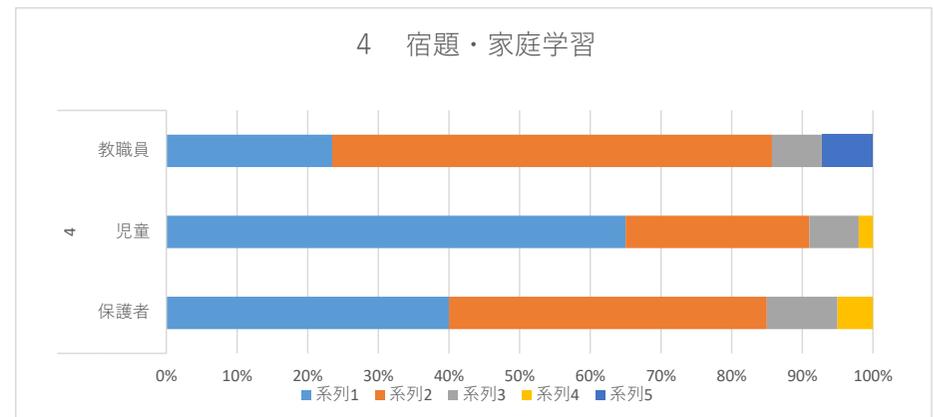
児童の意欲を高めるためには基礎基本の学力の定着が不可欠である。朝15分間のチャレンジタイムを設け、計算問題や漢字の書き取りに取り組んでいる。また、市の計算・漢字検定にも積極的に参加することで児童は意欲的になってきている。児童の肯定的評価94%（+14%）だが、保護者は77%（8%UP）となっている。ICT機器の活用や体験的な学習（実験・具体物操作・地域学習等）を取り入れながら学習の意欲化を図っていききたい。

### 3 わかりやすい授業



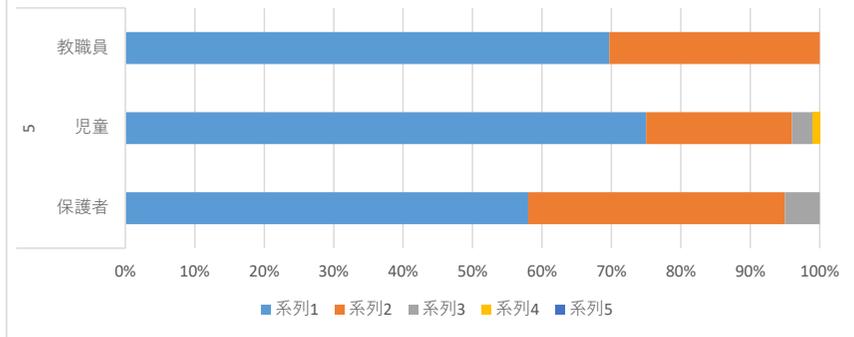
「わかった」「できた」と実感できる授業を目指し、ユニバーサルデザインの視点を生かし、各教科に取り組んできた。保護者の肯定的評価72%（+5%）だが、児童は95%（+17%）の評価。ICT機器の活用やスモールステップ化、体験的な活動を取り入れながらわかる授業に今後も取り組んでいきたい。

### 4 宿題・家庭学習



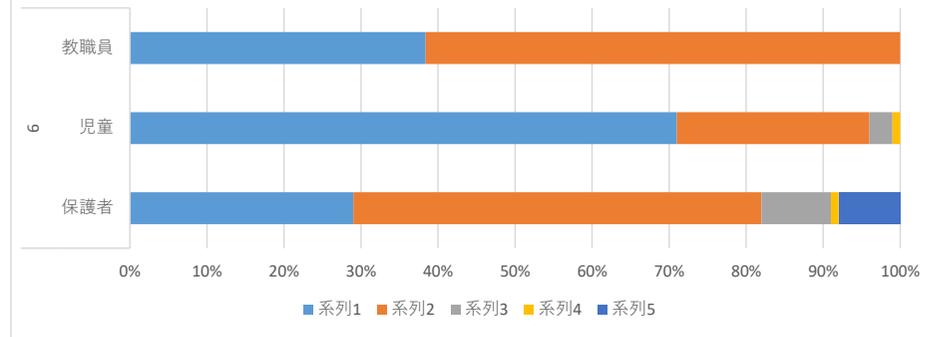
保護者の肯定的評価85%（+10%）。宿題については、どの学年も計画的に出している。学年×10分間は机に向かうよう保護者会や学校だよりで呼びかけている。児童の肯定的評価が91%（+13%）となっており、保護者の協力も得ながら少しずつ定着してきているものと思われるが、個人差が大きいところがある。

## 5 友達を大切にする



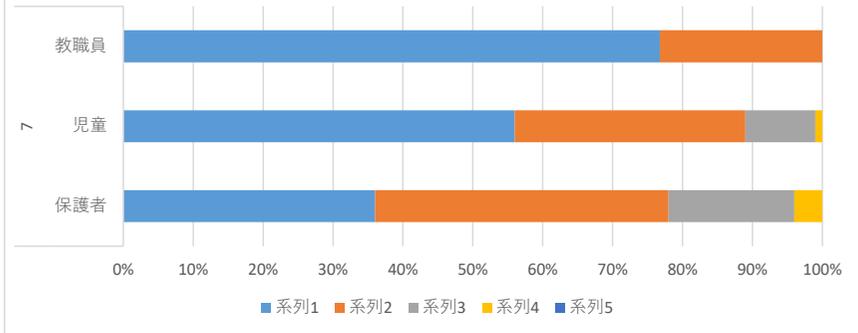
保護者の肯定的評価95% (+2%)。児童の肯定的評価96% (+9%)。しおあじの「思いやりのことば」をテーマに全校朝会で講話をしたり、人権作文や標語を作ったりすることで、友達を大切にする気持ちが高まってきている。また、たてわり活動を通して異学年児童へ優しく接する場面が多く見られた。

## 6 心の教育



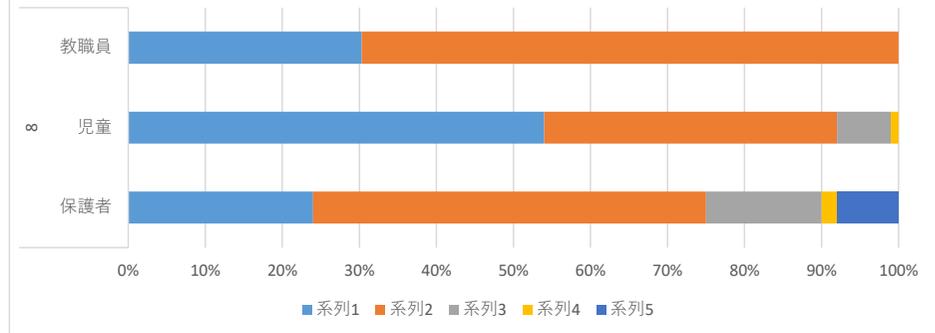
保護者の肯定的評価82% (+8%)、児童の肯定的評価96% (+15%)であった。今年度はみどり荘訪問、高齢者との交流等は中止となったが、自然体験活動や地域学習として「ふるさと大森再発見」をテーマに校外学習に取り組み、自然や人と触れ合いながら豊かな心の育成に努めた。昨年度から福祉活動の研究をしており、来年度以降も充実した活動を継続していく。

## 7 健康・生活習慣

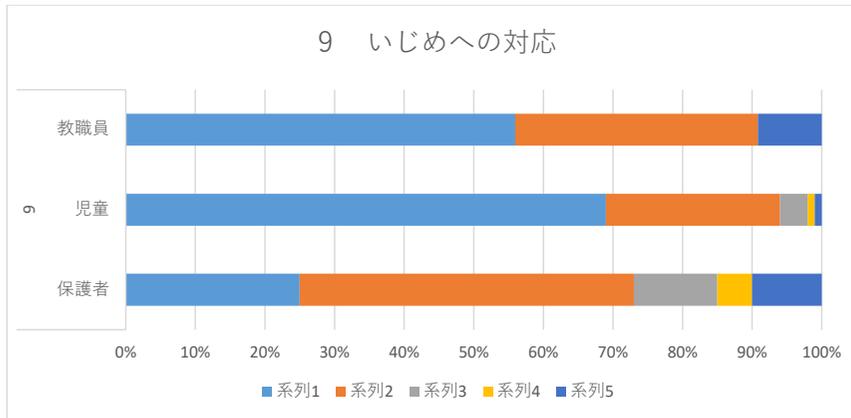


保護者の肯定的評価80% (+5%)、児童の肯定的評価89% (+12%)。運動や外遊びに制限がかかった中で、持久走練習やなわとび検定、もりもりタイム等で体力づくりに励んだ。また養護教諭による性教育、歯科検診を通してのブラッシング指導などを行った。基本的な生活習慣定着に向け、家庭との連携を図っていきたい。

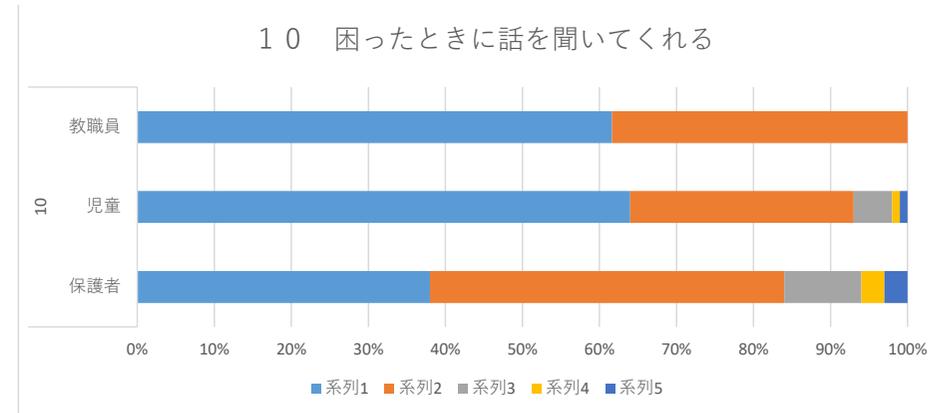
## 8 一人一人を大切にした指導



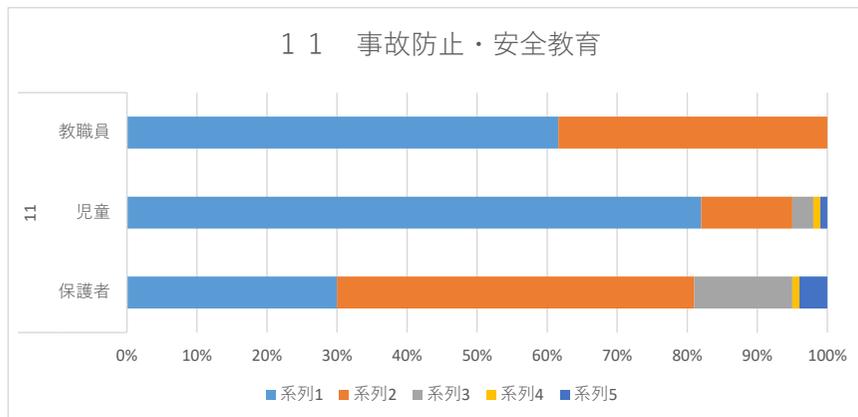
保護者の肯定的評価75% (+7%)、児童の肯定的評価92% (+21%)。担任だけでなく、全職員で子どもたちの学習・生活指導にあたっている。必要に応じて連絡帳や電話等で児童の様子を伝えており、保護者との連携を意識している。今後も児童の実態の共通理解を図るために家庭訪問、個別面談、学級懇談会等を実施し、個に応じた指導に努めていく。



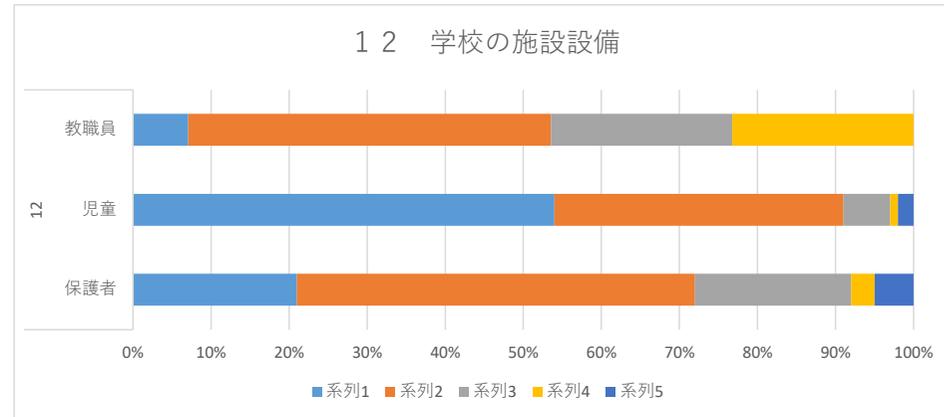
「あのね箱」やいじめアンケート調査を年6回実施したうえで、教育相談を実施し、いじめの早期発見・対応に努めている。保護者の肯定的評価73% (+5%)。児童は94% (+17%)で比較的対応してもらっていると感じている。今後も職員会議や生徒指導会議で情報の共有を図り、関係機関とも連携を図りながらいじめへの対応をしていきたい。



保護者の肯定的評価は84% (+8%)、児童の肯定的評価は93% (+13%)で比較的話を聞いてもらっていると感じている。友達とのトラブル等、学習や生活全般に渡って、学級担任は職員間で情報を共有しながら児童の対応に当たっている。

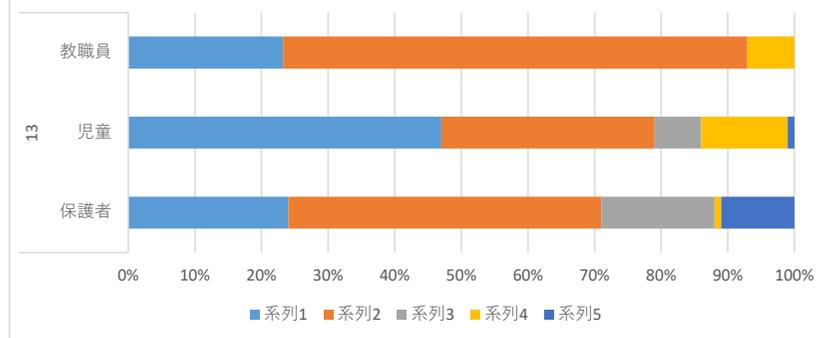


保護者の肯定的評価81% (+5%)。児童の肯定的評価95% (+10%)と安全に対する意識が高い。避難訓練(地震、火災等)、スポット避難訓練10回を実施し自分の命は自分で守るを合言葉に取り組んでいる。交通安全教室、通学路の点検、校内安全点検(毎月10日)を実施し、事故防止に努めている。



保護者の肯定的評価72% (-1%)、児童の肯定的評価91% (+17%)。コロナ感染対策として流しの水道の取っ手をレバーに交換した。しかし教室棟が古いままではあり、評価が伸びない理由であろう。教材や体育用具も経年劣化している状況にある。児童への安全を十分に配慮しながら、物を大切に作る心の育成も図っていく。

### 1.3 地域の施設や人材活用



保護者の肯定的評価71% (±0%)、児童の肯定的評価79% (-2%)。例年行っている地域体験(市役所、警察署、消防署、北総浄水場、クリーンセンター等の見学)や読み聞かせも中止となった。来年度は、読み聞かせボランティア、図書ボランティア、安全ボランティアなど地域の人材の活用を図ってきたい。

#### 【まとめ】

- |                     |              |              |
|---------------------|--------------|--------------|
| ①教育方針や教育目標を理解している   | 【保】71% (-7)  | 【児】97% (+7)  |
| ②意欲的に学習している         | 【保】77% (+8)  | 【児】94% (+14) |
| ③授業がわかりやすい          | 【保】72% (+5)  | 【児】95% (+17) |
| ④宿題や家庭学習に取り組んでいる    | 【保】85% (+10) | 【児】91% (+13) |
| ⑤友だちを大切にしている        | 【保】95% (+2)  | 【児】96% (+9)  |
| ⑥心の教育に努めている         | 【保】82% (+8)  | 【児】96% (+15) |
| ⑦健康に気をつけて生活している     | 【保】80% (-5)  | 【児】89% (+12) |
| ⑧一人一人を大切にされた指導をしている | 【保】75% (+7)  | 【児】92% (+21) |
| ⑨いじめにきちんと対応している     | 【保】73% (+5)  | 【児】94% (+17) |
| ⑩困ったときに話を聞ってくれる     | 【保】84% (+8)  | 【児】93% (+13) |
| ⑪事故防止や安全教育に努めている    | 【保】81% (+5)  | 【児】95% (+10) |
| ⑫学校の施設設備は整っている      | 【保】72% (-1)  | 【児】91% (+17) |
| ⑬地域の施設や人材を活用している    | 【保】71% (±0)  | 【児】79% (-2)  |

コロナ禍で行事や授業参観が削減され、保護者・地域に学校の様子を公開する機会が減ったため、学校・学級の経営方針が十分に伝えられなかったことが保護者の評価に影響したと思われる。しかし、児童においては授業やいじめ対応への評価が高く、日頃からわかりやすい授業づくりや個を大切にされた丁寧な指導が高評価につながったのではないかと考えられる。